

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、南九州地域の産業振興、環境の保全等に貢献するため「南九州・南西諸島域共創機構」を設置するとともに、6か国語を学べる外国語サロンの運用を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 外国語の活用能力を高めたい意欲的な学生を対象に、6か国語（英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、中国語、韓国語）について学べる外国語サロン「LOL (Language Out Loud)」の運用を開始している。LOLは学外から招へいするゲスト講師によるきめ細やかな指導・助言や学生アルバイトによるサロン運営の補助などにより、より質の高い異文化交流の学修機会を提供することが可能となっており、平成30年度の延べ参加者数は2,391名で、平成29年度後期の847名から大幅に増加している。（ユニット「グローバル教育の推進」に関する取組）
- 共同利用・共同研究拠点における大学間のネットワーク化を目指し、鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターが統合し、ヒトレトロウイルス学共同研究センターの設置を決定している。新しい研究センターは、両大学の資源や強みを持ち寄ることで、異分野のウイルス研究領域を再編成し、ウイルスの増殖抑制から排除へ転換する新しい研究領域を創設することを目指している。（ユニット「大学の強み・特色を活かした学術研究の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 男女共同参画の推進

妊娠、育児、介護・看病等期（ライフイベント期）の研究者に対し、研究活動等を補助する研究支援員を配置する「研究支援員制度」の性別による支援対象の制限を撤廃し、ライフイベント期の全ての研究者を対象とするよう制度改正を行っている。また、複数部局の女性研究者により設置した「鹿児島大学Women in Science for Health研究推進ワーキンググループ」の企画により、国際シンポジウムを開催し、女性・若手研究者の国際的研究の促進とダイバーシティ研究環境の形成を推進している。結果として、平成31年3月における女性研究者の割合は20.1%、役員に占める女性の割合は11.1%、管理職に占める女性の割合は14.5%となっており、中期目標で掲げている令和2年度までに達成すべき目標をすでに超えている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 南九州・南西諸島域共創機構等の設置

島嶼を抱える鹿児島を中心とする南九州地域の産業振興、医療・福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上等、地域社会の発展と活性化に貢献するため、南九州・南西諸島域の各種政策・課題事象及び学内研究成果等の情報の一元化並びにインターフェイス組織の整備充実を目的とする「南九州・南西諸島域共創機構」を設置している。機構内に、学内と学外との連携協働を円滑かつ機能的に推進するため、産学官連携推進センターとかごしまCOCセンターが有する機能を整理・集約する形で「産学・地域共創センター」を設置し、持続性のある地域イノベーション・エコシステムの構築を目指す体制を整備している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 特定看護師の育成と活用

平成28年度から看護師特定行為研修が開始され、平成30年度までに10名の研修修了生が誕生しているが、平成30年度には手順書の承認方法や研修・技術確認、医師や看護師との連携、勤務体制等を整備し、合計3区分11行為の特定行為を実施できるようになり、30名の患者へ延べ97件の特定行為を実施している。併せて、急変後の事例検討や看護師教育に携わり、医師不在時のタイムリーで適切な対応や患者の重症化予防及び看護の資質向上を推進している。

(診療面)

○ がんゲノム医療の推進

平成30年3月に、がん患者の遺伝子を調べて最適な薬や治療法を選択する「がんゲノム医療」が実施できる連携病院として承認されるとともに、ヒトゲノム遺伝子解析センターを設置し、がんゲノム診断外来及びがんに関連するゲノム解析と研究開発を推進している。

(運営面)

○ 病院収入の増収に向けた取組

新たに歯科改革プロジェクトチームや歯科経営改善会議を設置し、病院収入の増収に向けて、歯科の経営合理化を推進するため改革を進めている。